

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	徳山工業高等専門学校
	大学等名1(代表大学等)※カナ	トクヤマコウギョウコウトウセンモンガッコウ
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中国・四国地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立高等専門学校
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	機械制御工学専攻, 情報電子工学専攻, 環境建設工学専攻
	担当教職員名・役職	重村哲至・専攻科長／大橋正夫・専攻科幹事／北村健太郎・専攻科幹事／奥本幸・専攻科幹事／温品達也・専攻科幹事
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	18
	受入企業等数	27
	受入企業等名	下松市役所, 周南市役所, 光市水道局, 早稲田大学大学院情報生産システム研究科, 株式会社リライフ, 東京大学大学院情報理工学系研究科システム情報学専攻, 株式会社サイバーエージェント, 筑波大学情報学群情報メディア創成学類, 株式会社アスペクト, 株式会社日立ハイテクノロジーズ, 五洋建設株式会社, 中電技術コンサルタント株式会社, 前田道路株式会社, 公益財団法人文化財建造物保存技術協会, 株式会社徳本工務店, 東洋建設株式会社, 広島大学大学院総合科学研究科, 株式会社宇部建設コンサルタント, 京都大学防災研究所流域災害研究センター, 株式会社建設技術研究所, 西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社, 山口県建設技術センター, 株式会社NIPPO, 九州大学大学院人間環境学研究院, 東京大学生産技術研究所, 株式会社異設計コンサルタント, 株式会社鴻池組
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入企業等の技術的課題に関する調査や試験、開発業務の補助等。企業により幅がある。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 4.当該インターンシップは、必修科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	6単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本科目は1年次専門科目の必修科目として、授業期間中の6月から2ヶ月間(8週間)、企業等に学生を派遣し実施している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している

	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	「産業論」(1年次・教養科目・必修科目)の中で、企業の業務等について学ぶ。同科目内でマナー講習も実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後、学生からのインターンシップ実習日誌、報告書の提出を求めており、またポスターセッション形式によるインターンシップ報告会を実施している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	原則、インターンシップ実施期間中に実習先企業等を教員が訪問している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習先企業等、専攻科長、専攻科幹事による点数評価を付け、総合評価を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間2ヶ月間以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間2ヶ月間(8週間×5日)以上
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	授業期間中の6月からの2ヶ月(8週間)の間、実習先企業等において就業体験を主とする実習を実施している。実習先企業は自主的な探索、各専攻科幹事・指導教員による紹介、企業からの案内により、本人の希望によって決定している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	原則、インターンシップ中の巡回でアンケートを実施している。成績評価のうち、1/3は実習先企業等による評価である。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=35
問い合わせ先	大学等名	徳山工業高等専門学校
	担当部署名	学生課教務係
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	0834-29-6233
	メールアドレス	kyoumu@tokuyama.ac.jp